

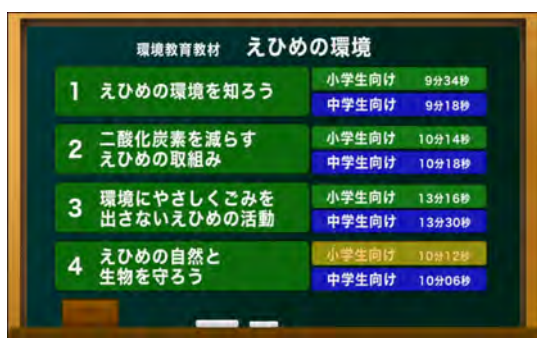
環境教育教材映像化事業

本県の自然豊かな環境を守り、よりよい環境を将来の世代へ引き継いでいくためには、次代を担う青少年の関心を喚起し、行動変容の機会を作っていくことが重要です。

そのため、愛媛県「三浦保」愛基金を活用し、総合学習(環境教育)が本格的に始まる小学校高学年から中学生を対象に、本県としては初の試みとなる環境映像教材用DVDとDVD活用ガイドブックを製作しました。

学校教育における活用はもとより、地域や家庭における環境学習への対応など、社会教育の様々な場面で活用いただけるよう県内小中学校等をはじめ、大学や各市町、県立図書館、公立図書館、県体験型環境学習センター等にDVD・ガイドブックを配布し、県の取組みの周知と環境保全意識の浸透を図っています。

◇DVDイメージ



《タイトルメニュー》



《1 えひめの環境を知ろう》



電気自動車

《2 二酸化炭素を減らすえひめの取組み》



《3 環境にやさしくごみを出さないえひめの活動》



《4 えひめの自然と生物を守ろう》

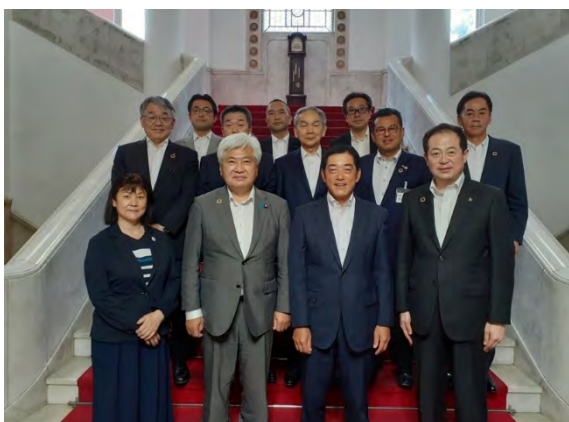
環境省「環境政策にかかる全国行脚」

脱炭素や環境政策に関し、環境省が全国の自治体、経済団体等と意見交換を行う「環境政策にかかる全国行脚」が令和4年5月29日、愛媛県で開催されました。環境省からは務台副大臣等が来県し、知事や地元企業・経済団体等と企業の脱炭素化に係る課題や支援などについて話し合いました。

副大臣の「脱炭素化は日本の将来を左右する課題であり、地方創生にもつながる。地方自治体や民間企業の取組みを積極的に支援したい。」とのあいさつの後、知事からは、地元紙産業関連企業が立ち上げた四国カーボンニュートラル協議会への支援や、海洋ごみ問題の現状を踏まえた補助の拡充、また各出席者から、中小企業への脱炭素化への支援などの意見・要望があり、副大臣から来年度の予算要求や制度改革に結びつけたいとの回答がありました。



- 開催日 令和4年5月29日
- 場所 県庁本館3階知事会議室
- 参加者 (環境省) 務台副大臣、水・大気環境局長、四国事務所長
(愛媛県) 知事、松山市長、西条市長、(株)伊予銀行、(株)愛媛銀行、
愛媛経済同友会、愛媛県中小企業家同友会、大王製紙(株)、
特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク



気候変動情報収集・分析事業

気候変動は、本県でも県民生活や地域産業等の広範な分野に深刻な影響をもたらしていることから、令和2年4月に気候変動適応センターを設置し、気候変動影響及び気候変動適応の関係部局並びに国、市町その他の関係機関と連携を図りながら、情報の収集、整理、分析、研究及び提供並びに技術的助言を行っています。

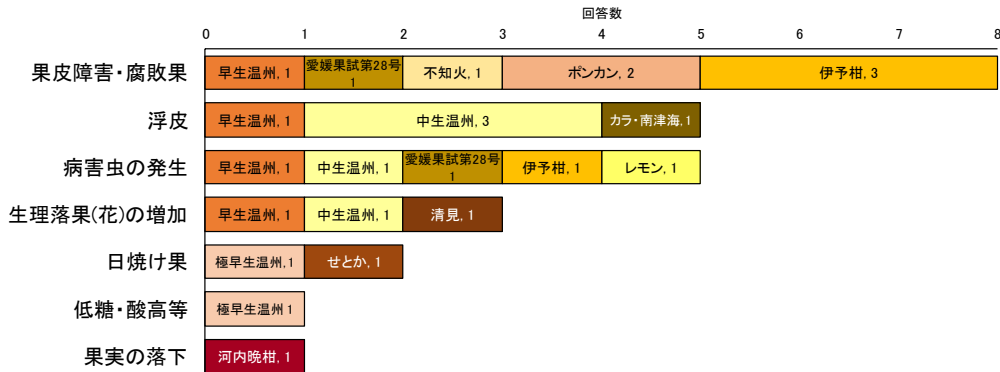
令和3年度は、前年に実施したアンケートの結果から、地域で将来の気候変動影響が不安視される優先課題を「柑橘類」及び「自然災害」とし、柑橘産業関係者及び県内20市町の防災関係者に対し気候変動の影響調査を行い、その結果をもとに将来予測計算に向けた計画書を作成しました。

「柑橘類」では、調査の結果、様々な品目・品種における気候変動影響が明らかになるとともに、温州みかんの他、ポンカンやデコポン等の中晩柑においても栽培適地の変化を示唆する情報があったこと等を踏まえ、主要品種の栽培適地変化の将来予測を行いました。

「自然災害」では、多くの自治体が過去に大雨による土砂崩れを数多く経験し、今後も懸念しているため、雨量の変化を基に土砂災害の将来予測を行いました。

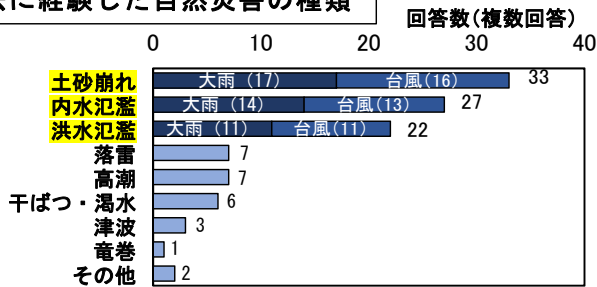
あわせて、気候変動の影響が避けられないこれからの時代に備えて、一人一人が今後どのように「適応」していくべきかを考えるきっかけとして、気候変動に関する専門家を招いて、えひめ気候変動適応セミナーを開催しました。

○柑橘類を主要産品とする農業団体が懸念している気候変動影響（主要な品種・品目）



○県内20市町防災関係者に対する調査結果

過去に経験した自然災害の種類



今後、特に懸念している自然災害



○えひめ気候変動適応セミナー

えひめ気候変動適応セミナー
～一人一人が適応していくためには～

地球温暖化の進行に伴い、愛媛県においても、平成30年7月豪雨災害をはじめ、記録的な猛暑による熱中症の増加や農産物等の産量減少など、気候変動による被害が発生しています。このため、愛媛県では、気候変動の影響が避けられないこれからの時代に備えて、一人一人が今後どのように適応していくべきかを考えるきっかけとして、気候変動に関する専門家を招いたセミナーを開催しますので多くの方のご参加をお待ちしています。

●日時
令和3年12月7日(火) 13:30～16:00
(13:00受付開始)

●開催方法
Google meetによるオンライン開催
申し込みいただいた方に詳細をご案内いたします。申込方法は要領をご覧ください。

●プログラム
定員100名程度
事前申込制

13:00～ 受付開始
13:30～13:40 開会あいさつ
13:40～13:55 愛媛県における気候変動情報収集調査について

14:00～14:45 講演① 急がれる気候変動対策
～気候変動適応ってなんだろう～

15:10～15:55 講演② 平成30年7月豪雨を振り返って

16:00 閉会

講師：国立環境研究所 気候変動適応センター長 向井 人史氏
講師：愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 二神 透氏

主催 愛媛県
～お問合せ先：愛媛県気候変動適応センター tel 089-931-6757～

衛生環境研究所の建替え・移転

県民の安全・安心のために公衆衛生や環境保全に関する調査研究、試験検査、研修指導、情報の収集・解析・提供を行う県の総合的試験研究機関である衛生環境研究所を松山市から東温市に建替え・移転を行いました。

建替え・移転に併せて、電源立地地域対策交付金を活用して、環境試料分析用のイオンクロマトグラフやガスクロマトグラフ質量分析装置等の大型機器を更新し、環境監視体制の強化を図りました。

愛媛県立衛生環境研究所：東温市見奈良1545番地4

【ホームページ：<https://www.pref.ehime.jp/h25115/>】

令和4年4月1日 稼働開始

◇愛媛県立衛生環境研究所（移転後）



◇落成式（令和4年3月28日）



◇大気汚染物質の分析



第五次えひめ循環型社会推進計画の策定

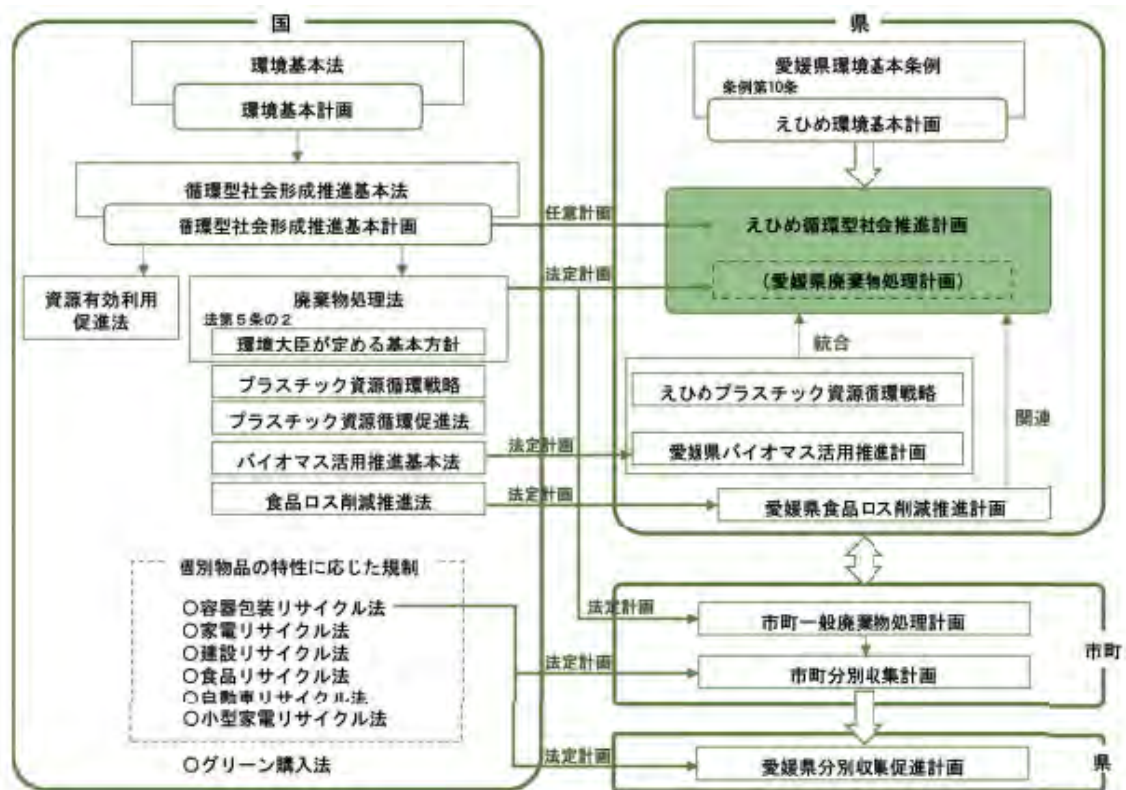
県では、循環型社会の実現に向け、廃棄物の3R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用））及び適正処理の推進や資源・エネルギーの持続可能な循環型社会システムの構築の推進、プラスチック資源循環の促進及び海洋プラスチックごみ対策の推進に取り組んできました。

令和3年度に、これまで進めてきた各主体の取組みを検証し、これまでの取組みをさらに進めるとともに、新たな課題に対応した取組みを総合的に推進するため、「第四次えひめ循環型社会推進計画」、「えひめプラスチック資源循環戦略」及び「愛媛県バイオマス活用推進計画」を統合して、「第五次えひめ循環型社会推進計画」（以下「第五次計画」という。）を策定しました。



1 計画の位置付け

えひめ循環型社会推進計画は、本県の環境分野の基本計画である「えひめ環境基本計画」が示す基本的な方向に沿って策定、推進されるものである。



2 計画期間 令和3年度から令和7年度までの5年間

3 基本理念 やさしい愛顔あふれる「えひめ」づくり
～調和と循環により、かけがえのない環境を守る～

海洋プラスチックごみ対策

2019年のG20「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」において、「2050年までに新たな海洋プラスチックごみ汚染ゼロを目指す」と各国首脳が宣言するなど、近年、国際的にも重要視されている海洋ごみ問題は、全国有数の水産県で全国第5位の海岸線を有する本県においても重要な課題となっています。

海洋プラスチックごみの効果的な削減につなげるため、以下の事業を実施しました。

1 「愛媛県海岸漂着物対策活動推進員・団体」制度の創設・委嘱等

【概要】海岸漂着物対策の活動を自らが率先して実施することをはじめ、県民や民間団体等の要請に応じ、海岸漂着物対策の推進に必要な助言や協力等を行う「愛媛県海岸漂着物対策活動推進員・団体制度」を創設し、委嘱・指定を行った。

【任期】委嘱または指定の日から5年間

【推進員・団体数】4人・14団体（令和3年度末現在）

2 漁協と地元市町との協働による海洋ごみ回収・処理モデル事業

【概要】県内沿岸市町及びその市町にある漁協において、漁業者がプラスチックをはじめとする海洋ごみを、作業中とはもとより重点回収日を設けるなど積極的に回収する。回収したごみは、漁業者が港まで持ち帰り一時保管した後、市町が運搬・処理することにより、海洋ごみの削減を図るとともに、漁業者の意識啓発につなげる。



【実施市町】大洲市（長浜町漁協）、愛南町（愛南漁協、久良漁協）

【回収実績】261.4 t（令和3年度末現在）

3 愛媛県海洋プラスチックごみ総合調査

○海洋プラスチックごみ実態把握調査の調査結果

【漂着ごみの量】・個数では、全ての地点で「プラスチック」が最も多い。

・東中予と比べ、南予が1.6～3倍程度多い。

・令和2年度調査結果と比較すると、ごみの量（重量）は全地点で減少している。

①漂着ごみ調査

地域	調査地点
東予	漂着1 大三島大見地区海岸（今治市）
中予	漂着4 高野川海岸（伊予市）
南予	漂着5 伊方越前ノ浦海岸（伊方町）
	漂着7 船越海岸（愛南町）

②漂流ごみ調査

地域	調査海域
東予	漂流1 高妻（安芸郡）
	漂流2 焼置
中予	漂流3 伊予灘北部
南予	漂流6 宇和海中部



図1 調査地点

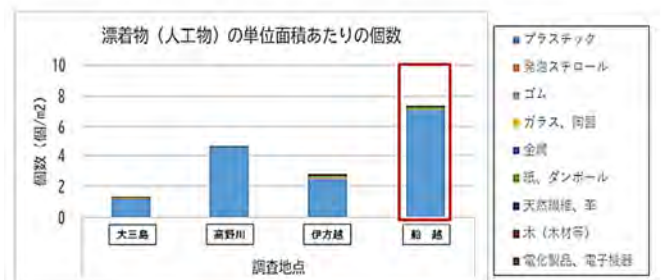


図2 漂着ごみ調査結果（個数）

【漂着ごみのプラスチックの種類】

- ・個数では、全ての地点で「海域由来」の割合が最も高い。
- ・海域由来の内訳は、全ての地点で「カキ養殖用パイプ」「カキ養殖用まめ管」の割合が最も高い。
- ・容積では、船越海岸（愛南町）を除く3地点では「容器包装」の割合が最も高い。

【漂流ごみ調査結果】

- ・人工物の個数は、宇和海中部が最も多い。
- ・宇和海中部では「発泡スチロール」の個数密度が最も高く、漁業経営体数と相関関係がある。

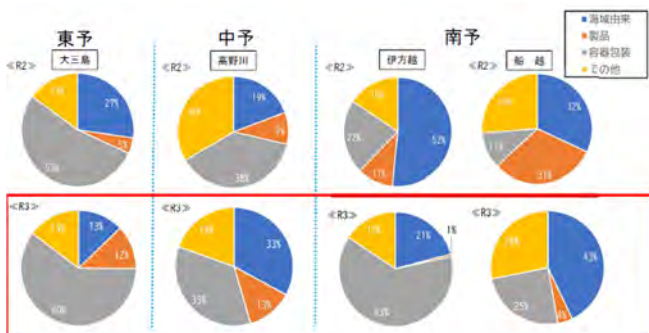


図3 漂着ごみの容積別プラ分類の割合

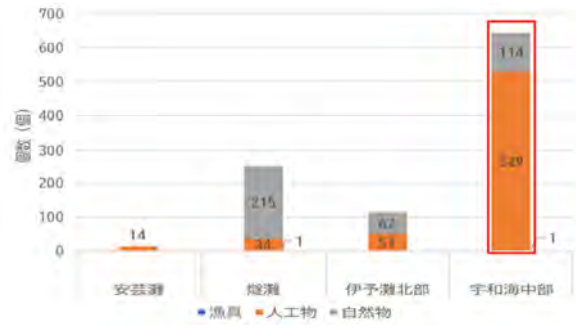


図4 漂着ごみの発見個数（人工物）

【マイクロプラスチック調査結果】

- ・海岸部では、南予の2地点で多い傾向である。
- ・沿岸部では、宇和海中部が最も多く、他の3地点の平均の4倍に上る。
- ・マイクロビーズや人工芝はいずれの地点からも検出されていない。

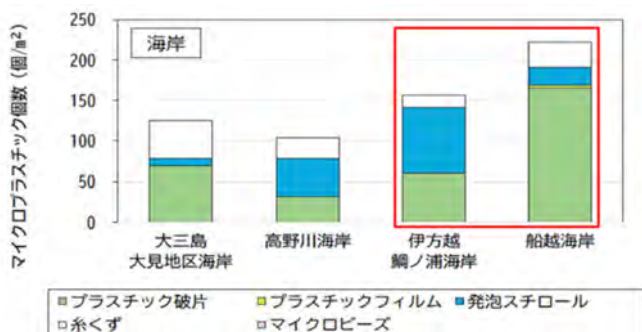


図5 海岸部の調査結果



図6 沿岸部の調査結果

○立入困難地域における漂着ごみ現状把握調査

- (1) 調査地点 南予全域
(大洲市、伊方町、八幡浜市、西予市、宇和島市、愛南町)

- (2) 調査結果
- ・南予地域で確認した漂着ごみの堆積箇所は563カ所。
 - ・全地点の合計は、5.5mの和船（軽トラック相当）約32,479艘分にあたる。



フードバンク活動の強化

食品ロスの削減は、循環型社会や低炭素社会の実現を図るとともに、愛媛が誇る豊かな海の幸、山の幸などの食材を無駄にしないためにも、食品関連事業者はもとより、消費者、行政が一体となって取り組むべき重要な課題です。

令和3年度には、食品ロス削減とコロナ禍における生活困窮者等への食料支援を目的に、フードバンク活動団体及び小売店と連携し、地域内で発生する食品ロスを地域内で有効活用するため、家庭系未利用食品を持ち寄る「フードドライブ」コーナーを常設で設置したほか、食品製造事業者の事業系未利用食品を生活困窮者等に提供するフードバンク活動の強化を行いました。

1 家庭系未利用食品のフードバンク活動

○実施時期 令和3年4月24日（土）～

○実施店舗、回収結果

- ・フジ19店舗 合計22,423個、6,606kg（令和4年3月末時点）
※愛媛の3Rフェア（エミフルMASAKI） 合計129個、48kg
- ・コープえひめ10店舗 合計5,471個、1,823kg（令和4年3月末時点）



フジ店舗での常設コーナーの様子



愛媛の3Rフェアの様子



コープえひめ店舗での常設コーナーの様子

2 事業系未利用食品のフードバンク活動

(1) 食品製造業者未利用食品調査事業

○調査：50事業者（コロナ禍のため、訪問に加え、電話・メール・FAX等でヒアリング）

○結果：寄附提供可能11事業者

(2) 事業系フードバンク活動モデル的实施・成果普及事業の実施

○フードバンク活動モデル的实施の実績

- ・概要：上記寄附提供可能11事業者と県が連携するフードバンク活動団体である特定非営利法人eワーク愛媛とのマッチングを実施。
- ・結果：5事業者から寄附提供を実施。
(令和4年3月時点)



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社の提供の様子

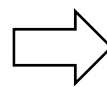
自然公園情報発信強化事業

新型コロナウイルスの収束見通しが立たない中、外出自粛等の影響により、令和2年の自然公園利用者は県全体で300万人を割り込み、298万5千人（前年比32.3%減）まで落ち込みました。

そこで、自然とのふれあいを疑似体験していただくことにより、自然公園利用者の回復、自然環境保全意識の醸成、ひいては地域経済の再生などにつなげることを目的に、自然公園映像のVR情報発信ボックスを制作し、臨場感あふれる自然公園の映像をより多くの人にご覧いただけるようにしました。

このVR情報発信ボックスは、令和4年3月に松山空港1Fロビー、えひめこどもの城、県庁本館県民総合相談プラザに設置したほか、今後は美術館やイベント会場などでも皆様に体験していただくこととしています。

(松山空港にて除幕式)



専用のケースに収納可能で、貸出しも行っています。
(お問合せ先)

愛媛県自然保護課 (TEL:089-912-2366)



自然公園の風景映像、VR動画はこちらから
楽しめます。

(VR動画は、VRゴーグルでの視聴を推奨します。)



南予自然公園魅力再発見事業

足摺宇和海国立公園に位置する滑床溪谷は、平成30年7月豪雨で被災した後、災害復旧は進んだものの、新型コロナの影響も重なり利用者の減少が懸念されています。そこで、滑床溪谷の魅力を発信して利用者の回復につなげるため、令和3年11月20日(土)に自然環境啓発イベントを開催しました。

当日は87名が参加し、里山滑床散策ツアー、E-BIKE体験ツアー、地元食材料理体験などのプログラムを通じて、滑床溪谷の魅力を十分に体感しました。

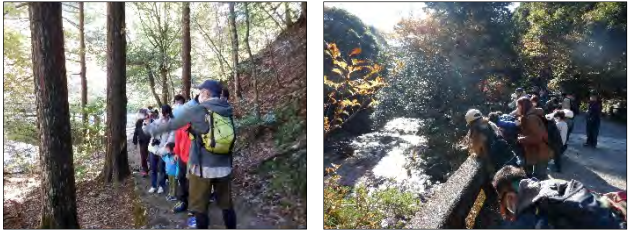
また、参加者が自然環境をテーマに話し合う「山ガールミーティング」では、自然とストレス軽減の関係などについて活発な議論が行われ、最後は参加者全員により「守ろう、豊かな自然と私たちの未来」と高らかに宣言するなど、滑床溪谷の魅力と環境保全の大切さを発信することができました。

ぜひ、みなさんも滑床溪谷に足を運んで、美しい自然を満喫してください。

(E-BIKE 体験ツアー)



(里山滑床散策ツアー)



(料理体験(バーベキュー体験))



(山ガールミーティング)



(豪雨災害からの復興PR)

